

令和5年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	✓
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	

活動団体名：阿嘉区

活動地域：沖縄県島尻郡座間味村（阿嘉島）

活動におけるテーマ

『地域に眠る活用されていない資源を利活用し観光業x六次産業化で稼ぐ力をつける』

活動団体および活動地域の紹介

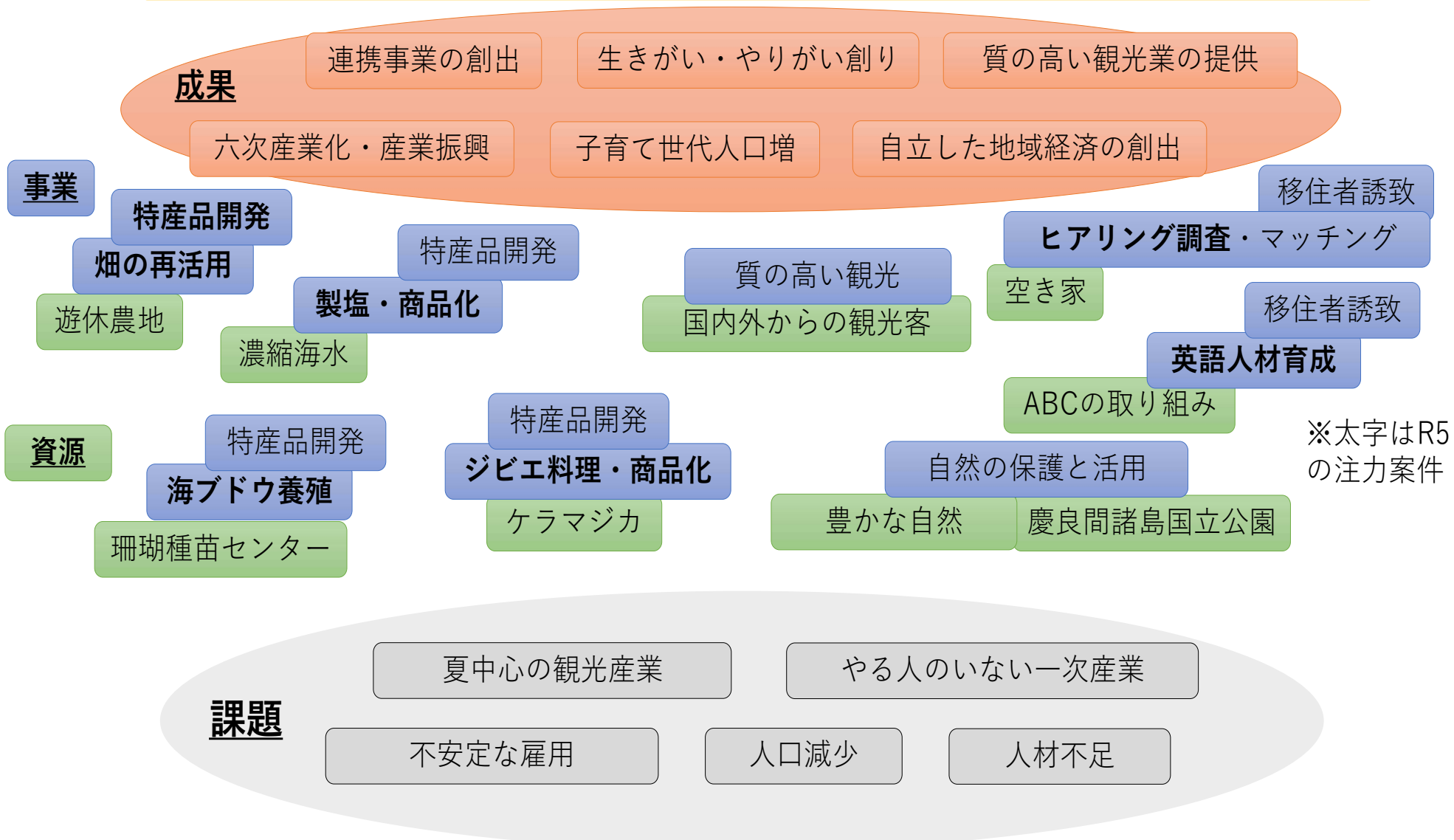


簡単なお紹介

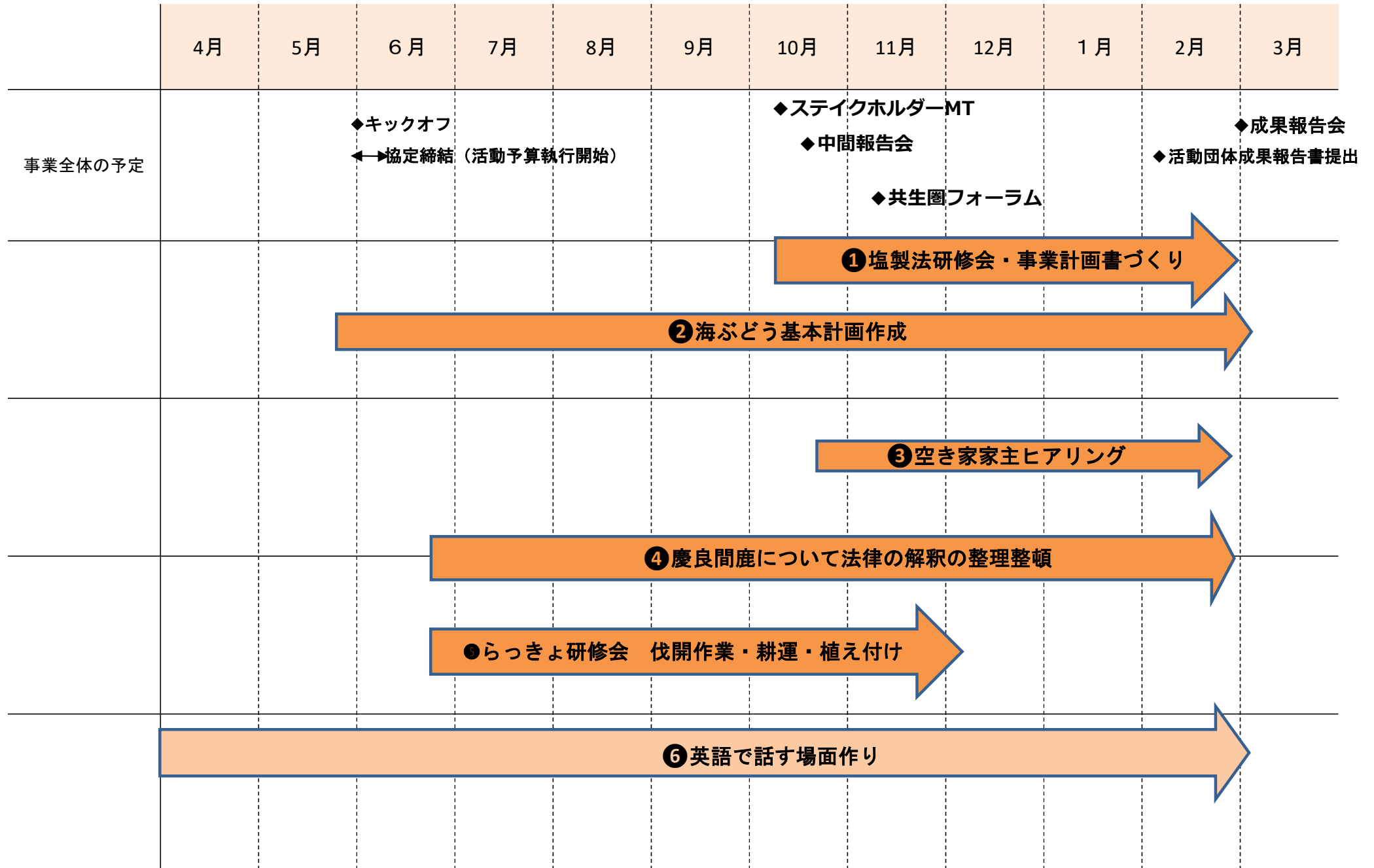
- ・ 私たち阿嘉区は沖縄本島より約30キロほど離れた慶良間諸島にあります。
- ・ 三つの島 座間味島・阿嘉島・慶留間島をまとめて座間味村と言います。
- ・ 阿嘉島には阿嘉区しかありません。人口約180人程度の小さな島です。
- ・ 主な産業はダイビング・民宿による観光業です。
- ・ 現在、人口減少・高齢化・若者が島に帰ってこない、などの問題を目の当たりにしています。しかし、まだ可能性は沢山あり、地域に眠る資源を活用することで様々な問題・課題の解決につなげていきたいと思っています。

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

ビジョン：観光産業×六次産業化で付加価値の向上と稼ぐ力をつける



年間スケジュール



今年度チャレンジした主な取組内容

取組①「濃縮海水からの製塩事業」

【活動内容】

- ・海水淡水化施設からでる濃縮海水を活用した製塩事業。
- ・沖縄県企業局に相談→NGではないが、事業計画書を出してほしい→阿嘉島に合った製塩事業を行うため県内製塩事業者に視察勉強に行く←今ここ
- ・阿嘉区の事業として行う

【成果や気づき】

- ・ステイクホルダーMTを通して興味ある人たちが集まりだした。
- ・「北谷の塩」さんに、「ただ製塩しても世の中には既にたくさんの塩があるから売れないよ」と現実と戦略が必要だと教わる。



取組②「空き家の活用」

【活動内容】

- ・阿嘉島内にある空き家（仏壇あり、年1, 2回家主来る）が約30軒あるので、家主に今後の利用についてヒアリング調査を行う←今ここ
- ・子育て世代の移住者を受け入れる為にも住むとこ問題の解決に取り組む

【成果や気づき】

- ・沖縄（田舎では特に）では仏壇に対する思いが強いので一筋縄ではいかないが、子どもが帰ってこない問題にも直面しているので親、兄弟、親戚などの今後についての話のきっかけになっている。
- ・家賃収入のメリットや契約、修繕費などの細かい問題が今後出てくるので行政も巻き込んで他市町村との連携も図っていく。



取組③「遊休農地の活用」

【活動内容】

- ・阿嘉島内の遊休農地を活用して付加価値の高い作物の生産・加工・販売を行う。
- ・島らっきよ 栽培管理がしやすい、台風の影響が受けにくい、希少価値が高い
- ・遊休農地約3,500㎡を伐開した。
- ・一筆がとても小さいため59名の地主がいる事がわかり、畑の利用権設定に地主探しに奮闘中、承諾を得た畑から植え付け開始←今ここ
- ・漬物製造許可書申請中

【成果や気づき】

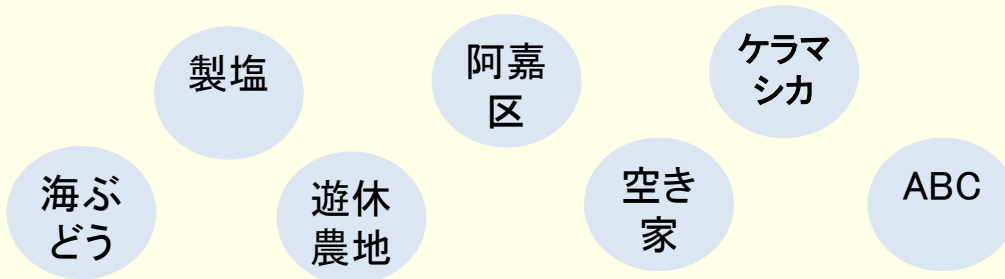
- ・島の畑が荒れ放題なことに島人は悩んでいたので六次産業化のアイデアは受け入れられやすかった。
- ・換金作物として買取る仕組み作りが遊休農地の解消、作付面積の拡大に繋がる。



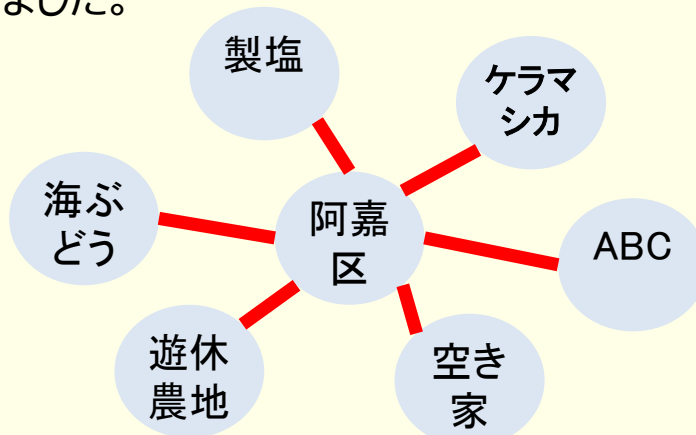
現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

【現状の地域プラットフォーム】

- 阿嘉島内で活用されていない地域資源はバラバラに点在し、地域全体としてなんとなく課題意識はあるものの、解決に向けた取り組みは行われていませんでした。



- 「地域循環共生圏事業」に採択された事を井戸端会議で話した事により、取り組みに向けたきっかけが生まれました。特にステイクホルダーMT後の反響が大きく阿嘉区を中心に課題解決へと人も集まりだしました。



【地域プラットフォームの変化】

- 少しずつでも動き出す事で0→1を作れた事が大切でした。
- 課題を共有しどうやって解決するか話し合いを持つことで関わる人たちの意識が変わっていくのがわかりました。あとは「ダメで元々、先ずは挑戦だ～」の勢いで「動く事」、「動かす事」に注力してきました。

プラットフォーム形成のポイント

- 夢物語や妄想で全然OK！
- 考えてワクワクする事ができれば問題の9割は解決したも同然だと思います。
- あとは楽道家となり「行動」に移せるかどうかでした。
- 阿嘉区の場合、普段から地域行事やイベントを通して世代を越えての付き合いがありました。
- 酒の場での話題はいつも島の為、沖縄の為、時には世界の為にどうしなければいけないか？を喧々諤々言い合っていました。
- ただ、それを行動に移して実際にやる人はいませんでした。
- そこで、この事業に申請し、予算を獲得したことで、「どこまで島の課題について前進できるか？」を試しにやってみよう！と仲間づくりをスタートしました。
- 「旅費や人件費は出します」が魔法の言葉で、人が動き出しました。（メリットを与える）
- キックオフMTや中間共有会、ステイクホルダーMTなど細かい作業は阿嘉区（私）でやるから、とりあえず行ってきてと「行動」すること、させる事が一番のポイントだと思います。
- 自発的に動き出すように仕組むことがポイントだと思います。

取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

- 活用されていない資源の洗い出しにより明確に「資源」が分かった
- 資源の活用により地域の付加価値の向上が可能だと知れた
- 一見、バラバラに見える地域の課題が実は繋がっている事が分かった
- 持続的に行える事業創りが幾つもの課題の解決策に繋がる事を知った

- 事業づくりにおける資金調達が今後の課題
- 複数の行政も巻き込んで取り組む場合、組織の建付けの面倒臭さがある
- 専門知識が必要な場合の継続的な費用算出が課題になる
- 熱量の違いへの対応と責任の所在

活動における今後の展望

- 阿嘉区が「活動団体」として行ってきたこれまでの取り組みを、次は阿嘉区が「中間支援主体」となる
- それぞれの事業をまとめた「阿嘉島産業興しの会」を活動団体として令和6年度の「地域循環共生圏事業」に申請をする
- 採択はまだわからないが、地域課題解決への取り組みはチャレンジし続ける
- メディアに取り上げられてもっと周りを巻き込めればそれぞれの事業が加速する